

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900034		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームつがる		
所在地	青森県つがる市木造吹原西前田21ー18		
自己評価作成日	平成29年8月8日	評価結果市町村受理日	平成29年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成29年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気で、自宅に居ると同じように過ごせるように支援しています。 また、ホームは天井が高いため、夏は涼しく、冬は暖かく、過ごしやすい環境の中で、安定した気持ちで過ごせるように支援していきたいと思います。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に職員が定着しており、開設当初からの職員も多く、継続した福祉サービスの提供がなされている。また、職員の異動は殆どないため、利用者や家族との長年の信頼関係の構築ができており、利用者は日々の生活を安心して営むことができる環境にある。 ホームは1ユニットということもあり、アットホームな雰囲気、天気が良ければ散歩に出かけたり、ホーム内のソファで寛いだり、それぞれの利用者の希望や意向に合わせた質の高いケアの提供に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入る前は事業所の理念を読み上げ、気持ちを切り替えています。また、職員が協力し合い、理念に沿ったケアができるように努めています。	管理者及び職員は日頃から地域とつながりを持つことを大事にし、地域密着型サービスの役割を理解している。また、職員は毎朝、理念を唱和してからケアにあたっており、職員間で理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室を利用したり、付近を通った方や新聞を届けてくれた方と気軽に言葉を交わし、地域とのつながりを大事にしています。	散歩の時に近隣住民と声をかけ合い、話をしたり、新聞配達員等とも顔見知りになり、気軽に言葉を交わす等、日頃から地域住民との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	プライバシーの問題もあり、ボランティアの受け入れ等までには至っていませんが、運営推進会議の際、自治会長や老人クラブ会長、民生委員、居宅介護支援事業所等に対して、グループホームでの活動を説明する等、事業所の役割を通して、社会貢献をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域を代表したメンバーの方々や、有識者代表として他事業所を運営している方にも参加していただいております。同法人の居宅介護支援事業所やデイサービスセンターからも参加してもらい、利用者さんの様子やホームでの活動等を報告し、意見交換をしています。会議の内容は職員にも報告し、業務に活かすようにしています。	老人クラブ会長や民生委員、自治会長等の参加を得て、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議ではホームの近況や自己評価及び外部評価結果等の報告を行っており、メンバーから活発な意見が出され、今後のホームの運営やサービスの質の向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所介護課職員にも参加していただき、その時に出た意見やアドバイスを参考に、取り入れられるのものは取り入れるようにしながら、協力関係を築けるように取り組んでいます。	運営推進会議には市職員の参加があり、利用者の利便性の向上やホームの運営等について意見をいただいている。また、日頃から問題解決に向けて相談する等、行政との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者さんが不穏状態になった時は、職員同士が声をかけ合いながら見守りをする事で、施錠はしていません。歩行介助が必要な方が落ち着きがなくなり、職員の目が届かない時は、車椅子に移乗して見守りをする時がありますが、なるべく職員同士が声がけをして、見守るようにしています。	職員は勉強会等を通じて身体拘束の内容や弊害を理解しており、マニュアル等の書類も準備している。また、全職員が身体拘束をしないという方針で日々のサービス提供に努めている。ホームでは玄関や窓は施錠せず、センサーを設置して、利用者が自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、「虐待は絶対にしない」という認識を持って業務をしており、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して成年後見制度について学んでおり、今後、制度を利用したい利用者さんが居る場合は、関係機関と協力し合いながら支援していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書等を通してグループホームの説明をし、質問等がないか確認しています。質問があった場合はその都度、説明しています。退所時の内容についても、契約書等を通して説明しています。また、利用内容に変更があった場合は早目にお知らせし、変更前に再度、説明する等しながら、ご理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と面会する時は、必ず利用者さんのホームでの様子を報告し、毎月、手紙にまとめてお渡ししています。その時に質問や要望がないか確認し、あった場合はご家族様と相談して決めています。その時の内容は職員にも伝え、統一したケアを行い、その結果どうであったかを全職員が知ることで、より良い介助ができるようにしています。	職員は日々の関わりの中で、利用者の言動や表情、会話等から、不満や意見を察するように努めている。また、日頃から、家族が面会に来た際等に情報交換をしながら、意見や苦情を出しやすい関係づくりに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場を心がけ、勉強会等を通して、意見や提案を聞く機会を設けています。また、利用者さんと良い関係が築けている職員は、その関係を大事にし、ケアに取り組んでもらっています。	利用者の受け入れ等についても管理者は職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員の意見がより良いホームの運営に反映できるような体制を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から適宜、報告を受け、職員の思いや状況を把握するようにしています。また、給与のベースアップや労働日の調整等を行い、職員同士が協力し合いながら、楽しく働ける環境が作れるように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月、勉強会を行う等、職員一人ひとりが向上心を持って仕事に取り組める環境を作れるように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅介護支援事業所やデイサービスの職員、他法人のグループホーム経営者に運営推進会議に参加してもらい、その時に出された意見を取り入れながら、サービスの質を向上できるように取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの時に思いを引き出せるような聞き方をしたり、また、利用者さん同士の会話からも思いや要望を汲み取って他職員にも伝え、その思いに応えられるように努めています。また、安心して生活ができ、良い関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時にはご家族様の気持ちにも同調し、信頼関係が築けるよう、意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんやご家族様の希望を確認しながら、必要としている支援を見極め、希望に沿えるようなプランを立てています。困難な時は職員からの意見も参考にし、対策を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お盆や食器拭き、洗濯物をたたむ等、利用者さんができる事は手伝ってもらっています。「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え、自分の存在感を感じてもらえるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には些細な事でも報告し、アドバイスをいただく等、共に利用者さんを支えられるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は、居室でゆっくりと過ごせるようにしています。また、普段の会話で利用者さんに行きたい場所を確認し、自宅に近い場合はご家族様にも相談し、了解を得るようにしています。帰宅願望が強い方は、ご家族様がこっそりと利用者さんの元気な様子を見れるように対応しています。	入居時のアセスメントや日々の関わりの中で、利用者の馴染みの人や場所について把握するように努めている。また、利用者の希望に応じて、馴染みの床屋への外出支援を行ったり、これまで関わってきた人との関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者さん全員がホールに出てきて、テレビを見たり、会話をし、一緒に過ごしています。レクリエーション活動では、得意、不得意があるため、お互いに手伝ったり、教え合ったりすることで、良好な関係が築けています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お会いした時は利用者さんの状況を報告してくれたり、気軽に声をかけていただく等、良い関係が築けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望まれる生活の場でありたいと思い、支援しています。困難な時は本人が納得できるように工夫、助言し、ご家族様にも相談しています。	職員は日々の関わりの中から、利用者の視点に立ち、思いや意向を把握するように努めている。また、家族や関係者からも情報収集し、利用者の思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者さんやご家族様、関係者等から聞き取りをし、情報収集を行っています。入所後もご家族様にホームでの様子を報告し、自宅に居た頃はどうか等、新たな情報も得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護から気づいた事や思った事について、申し送りを行い、話し合いをしながら、利用者さんの心身の状態を把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様にホームでの様子を伝え、検討したい事については、自宅ではどうであったか聞き取りをして、今後について相談をしています。職員にも報告し、話し合いを行い、現状に合わせた介護計画を作成しています。	職員は利用者に対する日々のケアの中から意見を聞いている他、家族や関係者等の意見や気づきも反映させた介護計画を作成している。また、介護計画は定期的に見直しを行っている他、利用者の身体状況や希望等に変化があった場合も、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかるように詳しく記録し、思った事や感じた事も記録しています。それを基に職員で話し合い、介護計画に反映させるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の心身の状況に合わせて、介護・支援するようにしています。他機関のサービスも参考にしながら取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域と関係機関に、情報の提供と協力をお願いしています。得た情報の他に、ホームでも地域にどのようなサービスがあるのか調べ、外部の方とのつながりを持っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は利用者さんやご家族様の意向で、自宅に居た時と同じ病院に通っているため、かかりつけ医とも連携が図れています。その他、受診が必要な場合はご家族様にも相談しながら病院を決め、受診結果を報告しています。	入居時にこれまでのかかりつけ医を確認し、希望する医療機関を受診できるように支援している。また、利用者の状況により、眼科や歯科等の受診も支援している他、受診結果は電話や手紙で家族に伝えることで、共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院先の病院に情報提供を行い、ご家族様も交えた治療方針の話し合いの場にも参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、利用者さんの状態が重症化した場合、状況によっては、ホームでの暮らしの継続が困難である場合があることも伝えています。ホームでの生活が困難と判断された場合は、次の受け入れ先の確保と、入所できるまでの支援を継続することを説明しています。	入居時に、ホームの方針として重度化や終末期の対応は行っていないことを説明している。また、利用者の日常的な健康管理については、主治医や家族と連携を図りながら、利用者の状況に合わせて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の介護現場で、事故の時にケアの仕方を伝えています。また、実務や勉強会、マニュアル等を通して、実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員を交えて、年2回の避難訓練を行っています。避難訓練後は職員が消火器を使った消火訓練も行っています。水害時等の避難経路等は、マニュアルを通して共有し、自治会長等に協力を仰ぐ等、地域との協力体制を築いています。	ホームでは年2回、地域住民や消防署からの協力を得て、夜間も想定した避難訓練に取り組んでいる。また、災害発生時に備えて、食料等の備蓄品をホーム内や屋外の車庫等に保管している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんは人生の先輩であるという意識を持ち、馴れ馴れしくならないように、言葉遣いにも気を付けています。また、プライバシーに配慮した対応も心がけています。	利用者には「さん」付けで声がけし、言動を否定したり、拒否せず、利用者を尊重した対応に努めている。また、職員は守秘義務や個人情報に配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問する際は利用者さんの気持ちを引き出せるような声がけをし、表情からも読み取るようにしています。日頃からコミュニケーションを図り、本心が言えるような環境づくりを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの希望に沿うような支援を心がけていますが、難しいと思われた場合は早目に説明し、それに代わる提案をしています。なるべく希望に近づけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は一緒に服を見立て、明るい気分で過ごせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はその日のメニューから会話の幅が広がり、楽しく食事ができています。また、テーブルや食器を拭くのを手伝ってくれるため、感謝の気持ちを伝え、存在意識を持つこともできていると思います。	利用者の希望や好き嫌いを考慮し、職員が献立を作成している。職員は利用者と一緒に席に座り、食事介助や見守りをしながらコミュニケーションをとり、利用者が楽しみながら食事の時間を過ごせるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックは毎回行い、摂取量が少なく、状態が気になる場合は病院を受診して、医師に報告・相談しながら、指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる利用者さんも歯磨きやうがいが終わった後に、きちんと磨けたか確認しています。自力でできない利用者さんや磨き残しがある利用者さんは、職員が口腔ケアの介助を行い、口腔内の清潔を保持できるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	認知症の進行や病気の影響で失禁が増えている利用者さんもありますが、失禁があっても定期的に声がけ、誘導し、トイレでの排泄を維持できるように支援しています。	利用者一人ひとりの排泄チェック表があり、職員は利用者の排泄パターンに応じて、羞恥心やプライバシーに配慮した誘導を適宜行っている。また、排泄の自立支援に向けた見直しを随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動や体操をし、水分も多めに摂り、便秘を予防しています。それでもなかなか排便のない時は、処方されている下剤を服用し、排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週4回あり、週2回は入浴できるようにしています。拒否される利用者さんには工夫をしながら声がけすることで、定期的に入浴することができており、清潔に過ごすことができています。	ホームでは週4回の入浴日を設けており、利用者のその日の体調や状況に合わせて入浴できるようにしている。また、利用者それぞれの習慣や意向等を取り入れながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんは起床時からホールへ出てきて、ホールで過ごしていますが、昼食後は体調も考慮し、体を休めてもらっています。夜の就寝時間も一人ひとり違うため、それぞれの生活リズムに合わせて休めるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は職員間で申し送りを行い、利用者さんの様子に変化がないか、観察しています。服薬についても、飲み忘れや飲み間違いがないか、職員二人で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫が得意な利用者さんには簡単な縫物をお願いし、教師だった利用者さんは書き取りやドリルを行い、カルタの読み手もお願いすることで、張りきって行っています。得意な事を活かしたり、行動するのが難しい利用者さんとは歌を歌う等、楽しく生活し、気分転換を図れるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急に外出を希望される方はいませんが、なるべく希望に沿うようにしたいと思います。普段から利用者さんの様子を家族に報告し、ご家族様の協力を得ながら支援したいと思います。外出計画については、利用者さんの希望を聞いて計画を立てています。	天気の良い日はホームの近隣を散歩している他、利用者の希望や習慣を取り入れた外出計画を立てて実施している。また、必要に応じて家族等に協力を呼びかけ、利用者が行きたい場所へ外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の意向もあり、全員の方がお金は持っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がきても聞こえないようで、黙っていることが多く、自ら電話をすることもあります。手紙も「字がわからない」と言われ、書くこともありません。以前できた事も徐々にできなくなっていますが、制作活動等を通してご家族様に気持ちを伝えられるよう、支援していきたいと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内はその時の季節が感じられるよう、飾り付けをしています。また、利用者さんの普段の様子を写したスナップ写真を掲示し、ご家族様が面会に来られた際、喜んで見えています。ホール内に温・湿度計を置いて、風通しを良くし、快適な空間になるように工夫しています。	ホームは天井が高く、日差しも適度に入り、開放的で明るい空間である。ホーム内は床暖やエアコンで適温に管理されており、利用者は、季節が感じられるような飾り付けがなされているホールの中で、ゆったりソファやテーブルに座り、思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ席とテーブル席があり、殆どソファ席で過ごされています。動ける利用者さんは自由に移動して、介助が必要な利用者さんには希望する場所に座ってもらい、利用者さんが思い思いに過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、必要と思われる物をお願いして、持って来てもらっています。病院から直接入所される方も多いため、茶碗等を持って来られる方はいませんが、殆どのご家族様は、新しい物を使わせたいと思っている方が多いようです。	新しい物を持ち込まれる方もいるが、ホームではなるべく入居前に使用していた物の持ち込みをお願いしている。また、持ち込みが少ない利用者に対しては、本人の意向を確認しながら、一緒に作った作品等を飾る等して、その人らしい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りのカレンダーで毎日、日にちを確認したり、手摺りを伝って歩く練習等を行っています。字が読める利用者さんは新聞を読んでも、最近の情報を得て、それを他の利用者さんに伝えている時もあります。心身共に豊かに生活できるように支援しています。		